２０２１年 ４月28日
第126号

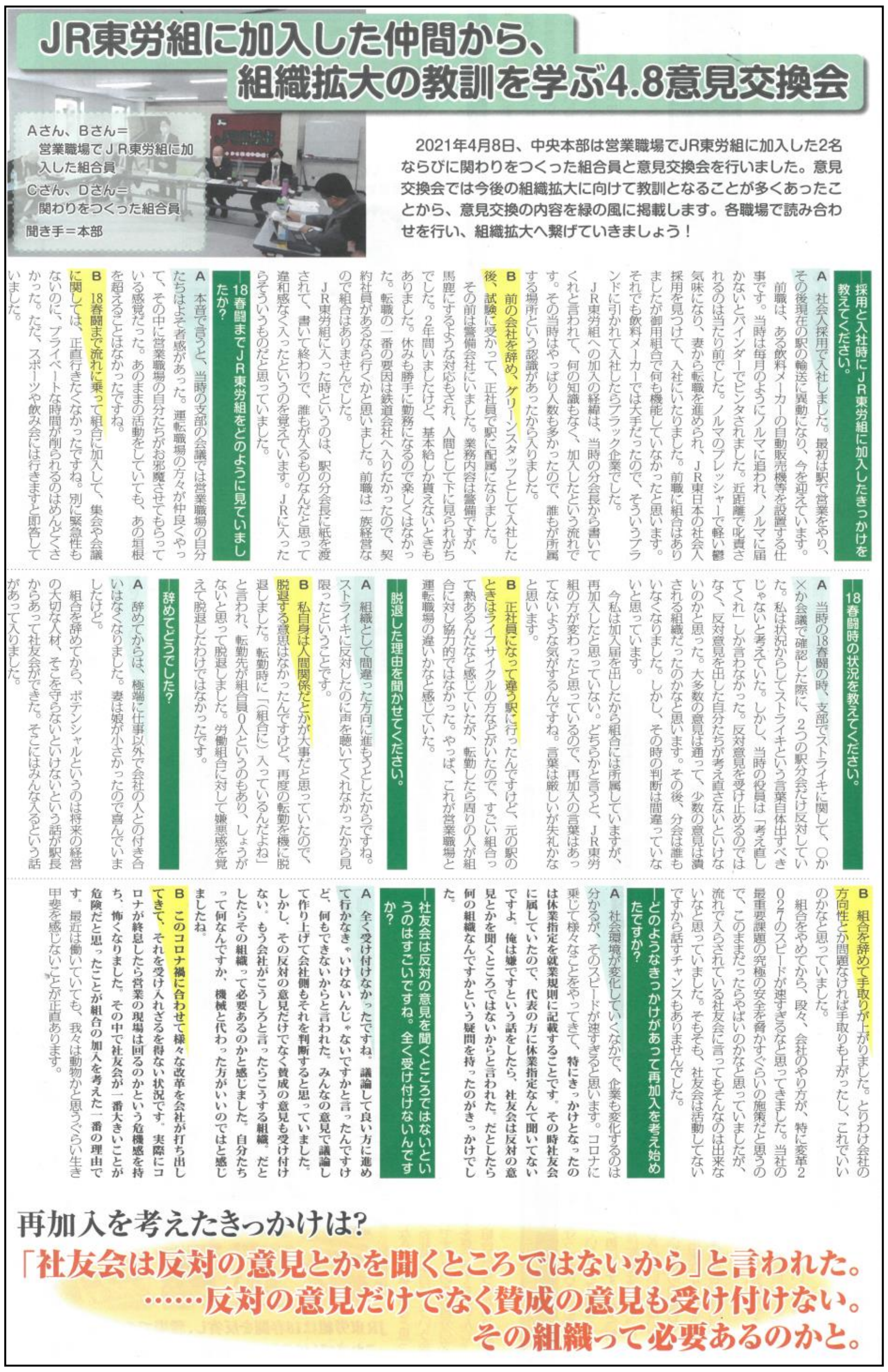
JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人 助川一実
編 集 情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

本部発行
緑の風を読もう！

今こそ組織拡大の教訓を学ぼう！

2021年４月20日発行の本部発行・緑の風第722号では、『JR東労組に加入した仲間から、組織拡大の教訓を学ぶ４．８意見交換会』の報告が掲載されています。



JR東労組に加入した仲間から、組織拡大の教訓を学ぶ4.8意見交換会

Aさん、Bさん＝
営業職場でＪＲ東労組に加入した組合員
Cさん、Dさん＝
関わりをつくった組合員
聞き手＝本部

2021年4月8日、中央本部は営業職場でJR東労組に加入した2名ならびに関わりをつくった組合員と意見交換会を行いました。意見交換会では今後の組織拡大に向けて教訓となることが多くあったことから、意見交換の内容を緑の風に掲載します。各職場で読み合わせを行い、組織拡大へ繋げていきましょう！

―採用と入社時にＪＲ東労組に加入したきっかけを教えてください。

A 社会人採用で入社しました。最初は駅で営業をやり、その後現在の駅の輸送に異動になり、今を迎えています。

前職は、ある飲料メーカーの自動販売機等を設置する仕事です。当時は毎月のようにノルマに追われ、ノルマに届かないとバインダーでピンタされました。近距離で叱責されるのは当たり前でした。ノルマのプレッシャーで軽い鬱気味になり、妻から転職を進められ、ＪＲ東日本の社会人採用を見つけて、入社にいたりました。前職に組合はありましたが御用組合で何も機能していなかったと思います。それでも飲料メーカーでは大手だったので、そういうブランドに引かれて入社したらブラック企業でした。

ＪＲ東労組への加入の経緯は、当時の分会長から書いてくれと言われて、何の知識もなく、加入したという流れです。その当時はやっぱり人数も多かったので、誰もが所属する場所という認識があったから入りました。

B 前の会社を辞め、グリーンスタッフとして入社した後、試験に受かって、正社員で駅に配属になりました。

その前は警備会社にいました。業務内容は警備ですが、馬鹿にするような対応もされ、人間として下に見られがちでした。2年間いましたけど、基本給しか貰えないときもありました。休みも勝手に勤務になるので楽しくはなかった。転職の一番の要因は鉄道会社へ入りたかったので、契約社員があるなら行くかと思いました。前職は一族経営なので組合はありませんでした。

ＪＲ東労組に入った時というのは、駅の分会長に紙を渡されて、書いて終わりで、誰もが入るものなんだと思って違和感なく入ったというのを覚えています。ＪＲに入ったらそういうものだと思っていました。

―18春闘までＪＲ東労組をどのように見ていましたか？

A 本音で言うと、当時の支部の会議では営業職場の自分たちはよそ者感があった。運転職場の方々が仲良くやって、その中に営業職場の自分たちがお邪魔させてもらっている感覚だった。あのままの活動をしていても、あの垣根を超えることはなかったですね。

B 18春闘まで流れに乗って組合に加入して、集会や会議に関しては、正直行きたくなかったですね。別に緊急性もないのに、プライベートな時間が削られるのはめんどくさかった。ただ、スポーツや飲み会には行きますと即答していました。

―18春闘時の状況を教えてください。

A 当時の18春闘の時、支部でストライキに関して、〇か×か会議で確認した際に、2つの駅分会だけ反対していた。私は状況からしてストライキという言葉自体出すべきじゃないと考えていた。しかし、当時の役員は「考え直してくれ」しか言わなかった。反対意見を受け止めるのではなく、反対意見を出した自分たちが考え直さないといけないのかと思った。大多数の意見は通って、少数の意見は潰される組織だったのかなと思います。その後、分会は誰もいなくなりました。しかし、その時の判断は間違っていないと思っています。

今私は加入届を出したから組合には所属していますが、再加入したと思っていない。どちらかと言うと、ＪＲ東労組の方が変わったと思っているので、再加入の言葉はあってないような気がするんですね。言葉は厳しいが失礼かなと思います。

B 正社員になって違う駅に行ったんですけど、元の駅のときはライフサイクルの方などがいたので、すごい組合って熱あるんだなと感じていたが、転勤したら周りの人が組合に対し協力的ではなかった。やっぱ、これが営業職場と運転職場の違いかなと感じていた。

―脱退した理由を聞かせてください。

A 組織として間違った方向に進もうとしたからですね。ストライキに反対したのに声を聴いてくれなかったから見限ったということです。

B 私自身は人間関係だとかが大事だと思っていたので、脱退する意思はなかったんですけど、再度の転勤を機に脱退しました。転勤時に「（組合に）入っているんだよね」と言われ、転勤先が組合員0人というのもあり、しょうがないと思って脱退しました。労働組合に対して嫌悪感を覚えて脱退したわけではなかったです。

―辞めてどうでした？

A 辞めてからは、極端に仕事以外で会社の人との付き合いはなくなりました。妻は娘が小さかったので喜んでいましたけど。

組合を辞めてから、ポテンシャルというのは将来の経営の大切な人材、そこを守らないといけないという話が駅長からあって社友会ができた。そこにはみんな入るという話があって入りました。

B 組合を辞めて手取りが上がりました。とりわけ会社の方向性とか問題なければ手取りも上がったし、これでいいのかなと思っていました。

組合をやめてから、段々、会社のやり方が、特に変革2027のスピードが速すぎるなと思ってきました。当社の最重要課題の究極の安全を脅かすぐらいの施策だと思うので、このままだったらやばいのかなと思っていましたが、流れで入らされている社友会に言ってもそんなのは出来ないなと思っていました。そもそも、社友会は活動してないですから話すチャンスもありませんでした。

―どのようなきっかけがあって再加入を考え始めたですか？

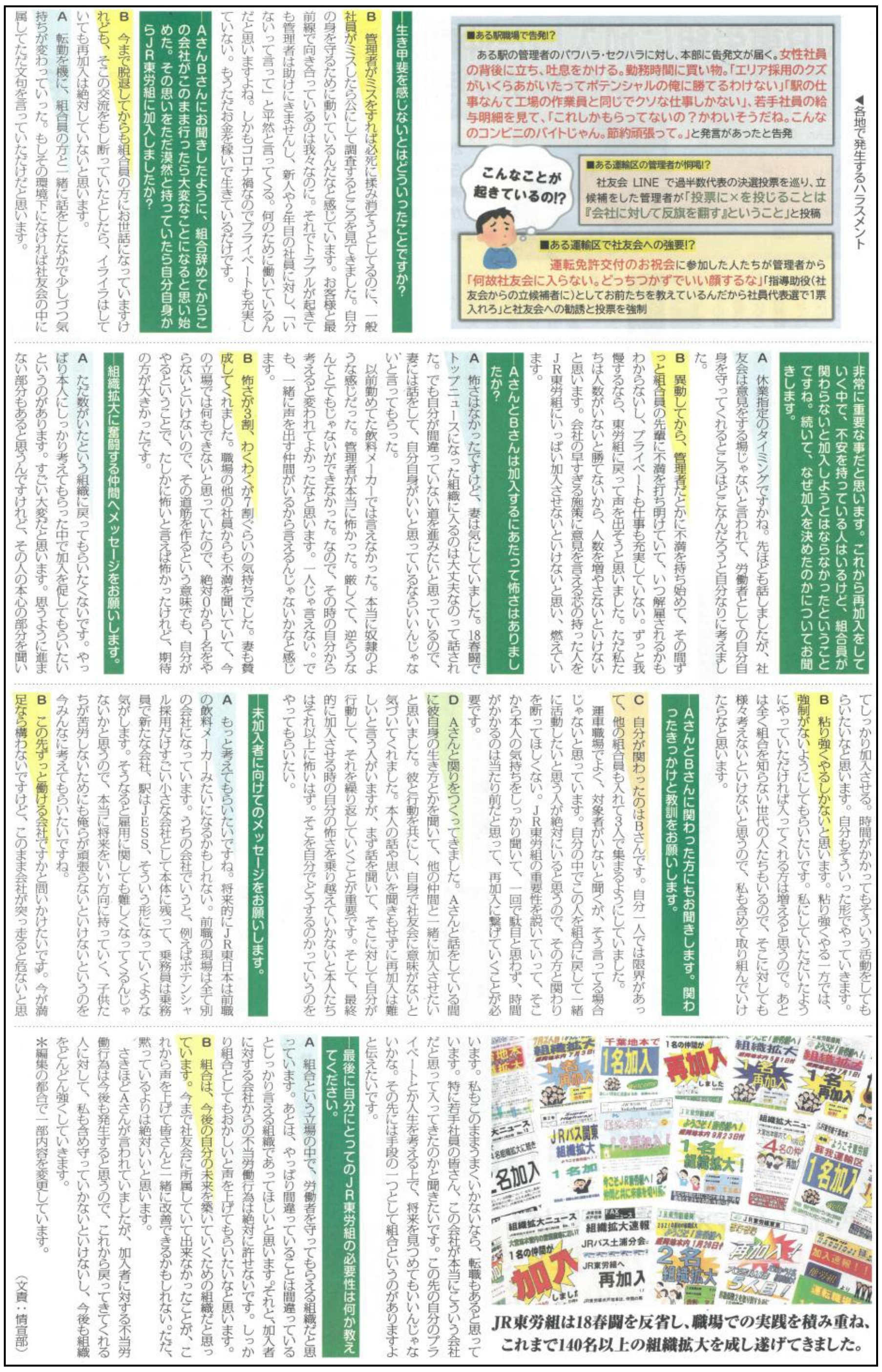
A 社会環境が変化していくなかで、企業も変化するのは分かるが、そのスピードが速すぎると思います。コロナに乗じて様々なことをやってきて、**特にきっかけとなったのは休業指定を就業規則に記載することです。その時社友会に属していたので、代表の方に休業指定なんて聞いてないですよ。俺は嫌ですという話をしたら、社友会は反対の意見とかを聞くところではないからと言われた。だとしたら何の組織なんですかという疑問を持ったのがきっかけでした。**

―社友会は反対の意見を聞くところではないというのはすごいですね。全く受け付けないんですか？

A 全く受け付けなかったですね。議論して良い方に進めて行かなきゃいけないんじゃないですかと言ったんですけど、何もできないからと言われた。みんなの意見で議論して作り上げて会社側もそれを判断すると思っていました。しかし、その反対の意見だけでなく賛成の意見も受け付けない。もう会社がこうしろと言ったらこうする組織。だとしたらその組織って必要あるのかと感じました。自分たちって何なんですか、機械と代わった方がいいのではと感じましたね。

B このコロナ禍に合わせて様々な改革を会社が打ち出してきて、それを受け入れざるを得ない状況です。実際にコロナが終息したら営業の現場は回るのかという危機感を持ち、怖くなりました。その中で社友会が一番大きいことが危険だと思ったことが組合の加入を考えた一番の理由です。最近は働いていても、我々は動物かと思うぐらい生き甲斐を感じないことが正直あります。

再加入を考えたきっかけは？
「社友会は反対の意見とかを聞くところではないから」と言われた。
……反対の意見だけでなく賛成の意見も受け付けない。
その組織って必要あるのかと。



◀各地で発生するハラスメント

■ある駅職場で告発!?
ある駅の管理者のパワハラ・セクハラに対し、本部に告発文が届く。女性社員の背後に立ち、吐息をかける。勤務時間に買い物。「エリア採用のクズがいくらあがいたってポテンシャルの俺に勝てるわけない」「駅の仕事なんて工場の作業員と同じでクソな仕事しかない」、若手社員の給与明細を見て、「これしかもらってないの？かわいそうだね。こんなのコンビニのバイトじゃん。節約頑張って。」と発言があったと告発

こんなことが起きているの!?

■ある運輸区の管理者が恫喝!?
社友会 LINE で過半数代表の決選投票を巡り、立候補をした管理者が「投票に×を投じることは『会社に対して反旗を翻す』ということ」と投稿

■ある運輸区で社友会への強要!?
運転免許交付のお祝会に参加した人たちが管理者から「何故社友会に入らない。どっちつかずでいい顔するな」「指導助役（社友会からの立候補者に）としてお前たちを教えているんだから社員代表選で1票入れろ」と社友会への勧誘と投票を強制

―生き甲斐を感じないとはどういったことですか？

B 管理者がミスをすれば必死に揉み消そうとしてるのに、一般社員がミスしたら公にして調査するところを見てきました。自分の身を守るために動いているんだなと感じています。お客様と最前線で向き合っているのは我々なのに。それでトラブルが起きても管理者は助けにきませんし、新人や2年目の社員に対し、「いないって言って」と平然と言ってくる。何のために働いているんだと思いますよね。しかもコロナ禍なのでプライベートも充実していない。もうただお金を稼いで生きているだけです。

―ＡさんＢさんにお聞きしたように、組合辞めてからこの会社がこのまま行ったら大変なことになると思い始めた。その思いをただ漠然と持っていたら自分自身からＪＲ東労組に加入しましたか？

B 今まで脱退してからも組合員の方にお世話になっていますけれども、そこの交流をもし断っていたとしたら、イライラはしていても再加入は絶対していないと思います。

A 転勤を機に、組合員の方と一緒に話をしたなかで少しづつ気持ちが変わっていった。もしその環境下になければ社友会の中に属してただ文句を言っていただけだと思います。

―非常に重要な事だと思います。これから再加入をしていく中で、不安を持っている人はいるけど、組合員が関わらないと加入しようとはならなかったということですね。続いて、なぜ加入を決めたのかについてお聞きします。

A 休業指定のタイミングですかね。先ほども話しましたが、社友会は意見をする場じゃないと言われて、労働者としての自分自身を守ってくれるところはどこなんだろうと自分なりに考えました。

B 異動してから、管理者だとかに不満を持ち始めて、その間ずっと組合員の先輩に不満を打ち明けていて、いつ解雇されるかもわからないし、プライベートも充実していない。ずっと我慢するなら、東労組に戻って声を出そうと思いました。ただ私たちは人数がいないと勝てないから、人数を増やさないといけないと思います。会社の早すぎる施策に意見を言える芯の持った人をＪＲ東労組にいっぱい加入させないといけないと思い、燃えています。

―ＡさんとＢさんは加入するにあたって怖さはありましたか？

A 怖さはなかったですけど、妻は気にしていました。18春闘でトップニュースになった組織に入るのは大丈夫なのって話された。でも自分が間違っていない道を進みたいと思っているので、妻には話をして、自分自身がいいと思っているならいいんじゃないと言ってもらった。

以前勤めてた飲料メーカーでは言えなかった。本当に奴隷のような感じだった。管理者が本当に怖かった。厳しくて、逆らうなんてとてもじゃないができなかった。なので、その時の自分から考えると変われてよかったなと思います。一人じゃ言えない。でも、一緒に声を出す仲間がいるから言えるんじゃないかなと感じます。

B 怖さが3割、わくわくが7割ぐらいの気持ちでした。妻も賛成してくれました。職場の他の社員からも不満を聞いていて、今の立場では何もできないと思っていたので、絶対0から1名をやらないといけないので、その道筋を作るという意味でも、自分がやるということで、たしかに怖いと言えば怖かったけれど、期待の方が大きかったです。

―組織拡大に奮闘する仲間へメッセージをお願いします。

A ただ数がいたという組織に戻ってもらいたくないです。やっぱり本人にしっかり考えてもらった中で加入を促してもらいたいというのがあります。すごい大変だと思います。思うように進まない部分もあると思うんですけれど、その人の本心の部分を聞いてしっかり加入させる。時間がかかってもそういう活動をしてもらいたいなと思います。自分もそういった形でやっていきます。

B 粘り強くやるしかないと思います。粘り強くやる一方では、強制がないようにしてもらいたいです。私にしていただいたようにやっていただければ入ってくれる方は増えると思うので。あとは全く組合を知らない世代の人たちもいるので、そこに対しても様々考えないといけないと思うので、私も含めて取り組んでいけたらなと思います。

―ＡさんとＢさんに関わった方にもお聞きします。関わったきっかけと教訓をお願いします。

C 自分が関わったのはＢさんです。自分一人では限界があって、他の組合員も入れて3人で集まるようにしていました。

運車職場でよく、対象者がいないと聞くが、そう言ってる場合じゃないと思っています。自分の中でこの人を組合に戻して一緒に活動したいと思う人が絶対にいると思うので、その方と関わりを断ってほしくない。ＪＲ東労組の重要性を説いていって、そこから本人の気持ちをしっかり聞いて、一回で駄目と思わず、時間がかかるのは当たり前だと思って、再加入に繋げていくことが必要です。

D Ａさんと関りをつくってきました。Ａさんと話をしている間に彼自身の生き方とかを聞いて、他の仲間と一緒に加入させたいと思いました。彼と行動を共にし、自身で社友会に意味がないと気づいてくれました。本人の話や思いを聞きもせずに再加入は難しいと言う人がいますが、まず話を聞いて、そこに対して自分が行動して、それを繰り返していくことが重要です。そして、最終的に加入させる時の自分の怖さを乗り越えていかないと本人たちはそれ以上に怖いはず。そこを自分でどうするのかっていうのをやってもらいたい。

―未加入者に向けてのメッセージをお願いします。

A もっと考えてもらいたいですね。将来的にＪＲ東日本は前職の飲料メーカーみたいになるかもしれない。前職の現場は全て別の会社になっています。うちの会社でいうと、例えばポテンシャル採用だけすごい小さな会社として本体に残って、乗務員は乗務員で新たな会社、駅はＪＥＳＳ、そういう形になっていくような気がします。そうなると雇用に関しても難しくなってくるんじゃないかと思うので、本当に将来をいい方向に持っていく、子供たちが苦労しないためにも俺らが頑張らないといけないというのを今みんなに考えてもらいたいですね。

B この先ずっと働ける会社ですかと問いかけたいです。今が満足なら構わないですけど、このまま会社が突っ走ると危ないと思います。私もこのままうまくいかないなら、転職もあると思っています。特に若手社員の皆さん、この会社が本当にこういう会社だと思って入ってきたのかと聞きたいです。この先の自分のプライベートとか人生を考える上で、将来を見つめてもいいんじゃないかな。その先には手段の一つとして組合というのがありますよと伝えたいです。

―最後に自分にとってのＪＲ東労組の必要性は何か教えてください。

A 組合という立場の中で、労働者を守ってもらえる組織だと思っています。あとは、やっぱり間違っていることは間違っているとしっかり言える組織であってほしいと思います。それと、加入者に対する会社からの不当労働行為は絶対に許せないです。しっかり組合としてもおかしいと声を上げてもらいたいなと思います。

B 組合は、今後の自分の未来を築いていくための組織だと思っています。今まで社友会に所属していて出来なかったことが、これから声を上げて皆さんと一緒に改善できるかもしれない。ただ、黙っているよりは絶対いいと思います。

さきほどＡさんが言われていましたが、加入者に対する不当労働行為は今後も発生すると思うので、これから戻ってきてくれる人に対して、私も含め守っていかないといけないし、今後も組織をどんどん強くしていきます。

＊編集の都合で一部内容を変更しています。

（文責：情宣部）

JR東労組は18春闘を反省し、職場での実践を積み重ね、これまで140名以上の組織拡大を成し遂げてきました。

加入した組合員からは「組合は、今後の自分の未来を築いていくための組織だと思っています。今まで社友会に所属していて出来なかったことが、これから声を上げて皆さんと一緒に改善できるかもしれない。ただ黙っているよりは絶対いいと思います」と語られています。

コロナ禍での閉塞感、将来展望の不透明さ、職場でのハラスメントなど、さまざま不安、不満を感じている仲間は多いです。緑の風を組合員と読み合わせし教訓を学びながら、ＪＲ東労組として、どのようにこの難局を乗り越えていくのか議論し、職場から運動をつくり出しましょう。